

第4回石狩市学校部活動の地域連携・地域移行等に関する 関係機関等協議会会議議事録

日時：令和7年11月20日（木）
18時00分～19時20分
場所：石狩市役所本庁舎4階
401・402会議室

出席委員 小森 享 委員（会長）（石狩市樽川中学校校長）
中西 章司 委員（副会長）（石狩市教育委員会学校教育部長）
上田 均 委員（公益財団法人石狩市スポーツ協会専務理事）
向田 久美 委員（アクトスポーツプロジェクト代表理事）
村谷 栄治 委員（石狩軟式野球連盟副会長）
小林 道晃 委員（石狩剣道連盟理事長）
佐々木 貴弘 委員（石狩市PTA連合会副会長）
矢野 淳司 委員（石狩市健康推進部スポーツ健康課課長）
清水 雅季 委員（特定非営利活動法人石狩市文化協会副会長）

欠席委員 中川 文人 委員（石狩市スポーツ推進委員協議会会长）
松田 直貴 委員（石狩市民吹奏楽団団長）
齊藤 晶 委員（石狩市教育委員会社会教育部社会教育課課長）

事務局 石狩市教育委員会
学校教育部学校教育課長 高石 康弘
学校教育部学校教育課学校教育担当 主査 宮本 智徳
学校教育部学校教育課学校教育担当 主事 柳谷 周斗

傍聴なし

議事内容

1. 開会

小森会長) 皆さん、こんばんは。会長を務めさせていただいております樽川中学校校長の小森です。よろしくお願いします。

今日も地域展開の話があります。地域展開では心の居場所づくり、親しむ機会の保障というのを大事にしてほしいという流れとなっていて、地域や学校の実態に応じた多様な選択肢を認めたいという方向で進んでおりますが、今日も石狩市として良い意見が出てくることを祈っておりますので、よろしくお願ひします。

それでは新委員の方から全員、自己紹介をお願いします。

(各委員自己紹介)

2. ①前回の協議会の振り返り

小森会長) それでは会議次第に従って進めてまいります。前回開催より時間が経過していることから、まずは前回の振り返りから本日の協議を進めてまいりたいと考えております。事務局より説明をお願いします。

事務局 宮本) 私、学校教育課の宮本よりご説明させていただきます。お手元にあります資料のうち、こちらの石狩市学校部活動の地域連携、地域移行等に関する関係機関等協議会A4横の資料をもってご説明させていただきます。

こちら前回（第3回）の会議の際にお配りした資料の抜粋版となります。ただ、ここに来るまでの間に部活動の地域連携、地域移行に関する内容ということで、まずは児童生徒に対して、その後保護者と教員に対して今後の部活動についてどのように考えるか、どのようなスポーツをやりたいかというアンケートを取らせていただきました。そのご報告をするところから始まり、前回はそのアンケート結果を用いて受け皿となりうる事業者の方たちにもアンケートを取らせていただきました。前回協議会では、その結果についてと今後の進め方についてご報告させていただいたところです。

こちらの資料1ページ目がそのアンケートの総括となります。こちらにつきましては、事業所事業者からしてみるとどちらにせよ問題があるという回答が見受けられました。実施することに対しては肯定的ですが、受け皿的な問題や指導者の報酬、活動場所、移動手段の問題があるといったアンケート結果となっております。

それに加えまして、次のページですが、こちらには国の方向性について記載させていただいております。当時は、国自体が中間報告ということになっておりまして、現行の地域移行というものから地域展開という内容に見直しをかけていくという点と、地域連携は引き続き部活動指導員の配置や合同部活動の実施によって継続していくといった見解になっております。本来であれば、令和5・6・7年という期間を使って進めていきましょうというものだったのですが、国が方針を切り替えまして、令和5・6・7年を改革推進期間。休日部活動を地域へといった流れとし、令和8年から令和13年にかけて、前期後期分けて定着させていきましょうという形になる見込みであるという報告が前回の中間取りまとめ結果となっております。

そして3ページ目、こちらが事務局からの方向性の提案として出させていただいたもので、今までの協議会の協議結果や児童生徒・保護者・教員向けのアンケートと受け皿となり得る団体さんへのアンケート、そして、今後の国の動向を踏まえた結果ということで、並行稼働で石狩市版の持続可能な制度を引き続き検討するという方法をご提案させていただきました。

部活動の継続としましては、拠点校方式の導入に向けた実証ということで、新年度から複数種目で拠点校方式を開始できないかということを検討検証して参りますという点が一つと、地域クラブへの試験的移行の検討ということで、こちらも引き続き協議していくましようということを提案させていただいたところです。

以上のような形で石狩市版として考えて参りたいというお話をいたのですが、当時の流れとしては事務局の考え方に対して、委員の皆さまには概ね賛同いただき、引き続きこちらの検討をして参りますといったところまでとなっておりました。私からは以上となります。

小森会長) 簡単に説明がありましたが、1ページはアンケート総括ということで、財源、場所、移動手段等の課題があったという報告となっております。

1ページ目いかがでしょうか？よろしいでしょうか。

(質問なし)

2ページ目が国の動向ということで、ニュース等でもご存じとは思いますが、すごく進んでいる地域があるわけではないという現状になっております。令和8年から13年までの改革期間となっておりますので、時間があればあると思いますが、改革期間を引き伸ばされたとも取れるかなと思います。石狩市としましては、石狩版を作るということで拠点校方式の導入に向けた実証等を進めていきたいというのが前回までの提案となっております。よろしいですか。質問ありますか？

小林委員) 3ページ目のところで、私剣道なんすけれども、剣道は拠点中学校が花川中になっておりまして、それ以外の樽川中や石狩中は部活動がないんですね。そこで実は剣道の地域クラブを作つて中体連に出場することができないだろうかと検討をいたしました。実際色々な関係機関に打診してみたのですが、石狩は剣道スポーツ少年団が現在3つあるんですけども、地域クラブを作るとなると、そこから一旦中学生全員を抜かなければいけないということがわかったんです。

じゃあその現在の少年団から中学生を抜いたらどうなるかというと、残るのは小学生だけで小学生だけでは数名となってしまい少年団が継続できないんですよ。ということで、

この案は無理だろうと思いました。そして、そういった事情を全道あるいは地域中体連に掛け合ってみたんですが、やっぱり難しいという結論になりました。

とにかく拠点校方式にするか合同部活動にするか、もしくは地域クラブを作つてそこに中学生を集めるという選択肢になると、花川中以外はもうどうしようもない状態になってしまっているというのが現状です。

逆に言えば、少年団（地域クラブ）が1つしかない場合は可能だと思います。聞いた話によると、札幌でもバスケが地域クラブを作ろうと中学生を引き抜こうとして、問題が生じて中断という話を全道中体連から聞いております。なので、地域クラブへの試験的移行というのはなかなか難しいのかなというのが私が1年間動いてみて感じたことです。

小森会長）事務局からどうですか。

事務局 宮本）今お話をあった通り、もともと部活動の継続をしていくとともに、地域クラブへの移行の試験的な導入の検討ということで考えていたので、剣道などの複数の団体がある場合には、どこか1つの団体（クラブチーム）という扱いで出場するということになってしまふと、現所属から該当生徒を抜かなければいけないという危機的な問題になってしまふというのが事前にこちらでわかれれば、中体連側に「団体の扱いを改めてもらう」という提案が出来たり、実現可能な方向となると拠点校方式もしくはその部活動をそれぞれの学校で継続していくかという選択肢の中で、1個の競技に対してではなく、それぞれの競技の中で何か方向性を見出していくかなければいけないのでないかというところは前回も少し話がありましたけど、団体競技と個人種目それぞれこういう方法もあるよね等の話が出てくると思うので、石狩スタイルという形で考えたときには競技によってやり方を変えていく方がいいのではないかといった意見、協議内容としてはありなのかなと私は思います。

小森会長）よろしいですか。まずは1つ1つ考えていくて、できるものからやるっていうのが前回までの話だったと思います。

では、次に進ませてもらいます。事務局から次の提案をよろしくお願ひします。

2. ②国の動向

事務局 高石）国の動向説明ということで、資料はこちらのカラー両面のものになります。今、宮本主査からの説明と会長からの概要説明のあったところと重複する部分もありますが、本市では、第3回目の協議会でお示ししたのは、去年の12月段階での中間まとめというものでした。

今回お配りしているのが、今年の5月16日に最終取りまとめとして出されたものの概要になります。中間まとめにこの資料4ページ目の個別課題への対応という8項目が追記

されるような形で最終取りまとめとなっていますので、スケジュール感は変わらないということになります。

改めての話なのですが、本市の現状から見たポイントとしましては、まず1ページ目の(3)ですね。地域クラブの活動のあり方等をより的確に表すため、地域移行という名前が地域展開という名前になりましたという点。次に2ページ目の3番目。下の枠の真ん中にあります今後の改革の方向性(=次期改革期間)ですね。令和8年から10年が前期。中間評価を踏まえて、令和11年から13年を後期というような形とします。コメ印1個目ですが、休日は前期中に検討を着手してください。後期が終わる段階では、原則すべての部活を地域展開してくださいというのがこの内容になります。平日は前期で課題を検証しておいてください。中間評価の段階で取り組み方針を決定し、さらなる改革を進めていってくださいというのが今回の最終とりまとめで示されているステップとなります。

同じ枠内1番下の黒点に費用負担のあり方等の記載があるんですけれども、部活動指導員の配置について国が一定の範囲で支援を提供しますと書かれております。

以上が本市の現状から見たポイントとなります。この最終取りまとめは部活動の地域展開の部分が主要に書かれております。本市としては、部活動の拠点校方式・部活動の継続と並行しまして国の示す部活動の地域展開に向けた検討と調整を行って、国の示すステップを踏まえつつ本市の実情に合った地域展開を目指し、今後協議をさせていただきたいというところであります。国の動向の説明については以上です。

小森会長) ただいま事務局から説明がありました、ご確認やご質問等ありますか。

(質問なし)

あとで何かありましたらまたお願ひします。

次に、「石狩市の部活動の実態について」事務局より説明をお願いします。

2. ③石狩市の部活動の実態について

事務局 宮本) まずはお手元にあります「令和7年度中学校の部活動の実態について」をご覧ください。こちらが、現在市内中学校における部活動の状態となっております。

ポイントとしましては1番右側ですね。学校別内訳という欄がありまして、それぞれ左側にある種目種別と見比べて部活動がどの学校に存在するかという見方になります。上から行きますと、野球部は花川中と樽川中。ソフトテニス部は花川中、花川南中、花川北中、樽川中にあります。ソフトボール部は花川中。サッカー部は花川南中、花川北中、樽川中といった見方で見ることができます。

こちら学校別内訳のところで「両」と書いてあるのは男女どちらも入部ができるというもので、あとは男女別といったところがこちらで表記されているところです。全体的な人

数は部員数をご覧いただければ把握できるかと思っております。下の部分の文化系につきましても同じく吹奏楽部、美術部、太鼓部、文化部はこのような内訳になっているところです。

次に部活動指導員の配置状況ということで、「部活動指導員運用状況」と書かれた用紙をご覧ください。こちら部活動指導員と外部指導者がございます。部活動指導員は、各部活動の顧問になり得て責任者として引き受けていただくというものになっておりまして、兼任で顧問監督コーチができるというような状況になっております。

1番右側にあるように令和7年度現在、花川中のソフトテニス部に部活動指導員を設置しております。花川南中のバスケ部については5月から任用しております。花川北中のソフトテニス部は任用してたのですが、10月に退職している状態です。あとは卓球部に設置しております。また、樽川中にバスケ部の部活動指導員を設置しております。

そして下の欄ですね。外部指導者は顧問は教員が行っているのですが、コーチを外部にお願いしてボランティア等で教えていただいているといった形になります。こちらにつきまして、令和7年度は花川中の陸上部。花川北中でソフトテニス部と剣道部と吹奏楽部。樽川中のサッカー部とバドミントン部、太鼓部。浜益中の卓球部にコーチがいるという状況になっております。

そして最後に、現在石狩市では指定校区の学校に通っていただいているのですが、この校区変更理由として部活動理由で学校を変えるということができるようになっておりまして、そちらの状況を示しております。「R7年度部活動理由での指定外就学状況」をご覧いただきたいのですが、左から中学校とあります。こちらが今現在通っている学校になります。花川中に通っている生徒ですが、本来の指定校は花川北中。学年は今一年生で許可した部活はバスケ部というような形になっております。

同様に見ていくと、現在バスケ、剣道、陸上、サッカーをやりたいという理由で学校を変えたいという申し出があり、許可しているのがこちらになります。現在、花川中に通っている生徒で5名。花川北中に通っている生徒で8名。花川南中に通っている生徒で1名が部活動理由で学校を変更しているといった状況になります。私からは以上となります。

小森会長) ありがとうございました。部活動の実態について、管内と石狩市の状況を私から説明しますが、吹奏楽部や美術部は結構管内的に潰れているところがありますが、石狩市は吹奏楽部が復帰したりして、かなり文化部は継続している状況に戻っています。

あとは、札幌市とかでも合同チームが非常に増えていますが、すべての部活動がどこかの市内中学校にはあるという状況なので、これから話すと思いますがどの部活動が拠点校方式の実証として可能か、地域クラブとして可能かをテーマに話し合っていきたいと思います。よろしくお願ひします。PTA代表の佐々木さん何かありますか？

(なし)

大丈夫ですか。事務局から話し合ってほしいポイントとかありますか？

事務局 宮本) ポイントとしては、仮に何かを拠点校方式で試験的に行う場合には今回最後にご説明させていただきました部活動理由での指定外就学状況という点に着目した方が良いと思っております。結局ここで部活動を理由に指定校の変更を許可しているという状況を踏まえると、花川中のバスケ部を拠点校にしましようとした場合には、花川中に通うことを許可していた生徒が花川北中に戻らなければいけないのかという話も出てきます。こういったケースは、子どもたちの友人関係等もございますので保証してあげなければいけないかなと思います。そういったことを考えたときに、部活動理由となっている種目を選択するかどうかというのが1つのポイントになるかなと思います。

あとは、3つご紹介した内容のうち最初の「中学校の部活動の実態について」で各学校の部活動の有無が把握できると思うんですけれども、それぞれの学校で部活動として成り立っているので、複数の学校でやっている種目については拠点校方式は見合わないのではないかと思います廃部等になった部活動でやりたいのにやれない生徒がいた場合には、部活動が存在している学校を拠点校方式として、拠点校にて再び部活動をやることができるのでないかなと思います。担当者としてもざっくりとした意見で申し訳ないです。

小森会長) 前回までの話で拠点校方式が可能な部活動としては、野球部、ソフトボール部、サッカー部だったと思いますが、今年状況が変わったのはサッカー部が3校とも人数が結構増えてきたので拠点校にするのが難しくなったという状況があります。

野球はそのまま樽川中と花川中なので拠点校にできなくはないかなと考えています。村谷さん、どうですか。少年野球とか見ながら例えれば野球が拠点校になるとしたら、樽川中が拠点校で花川中から来てもらうみたいな形になるかと思いますが。

村谷委員) 拠点校になるのは樽川中がいいか花川中がいいかと言われるとなんとも言えないですね。交通機関のこととも考えなければいけないので。

現状は数人しかいなくて部活をするのが難しいが、本当は部活をやりたいという子を調査して1つの中学校に集めてしまうと、人数が増えすぎてしまったりという問題もあると思うので、そうなったら花川中と樽川中という2つの拠点校に分けるという方法もありかなと思います。ただ、1校を拠点校にするという考え方なんですね？

小森会長) はい。今樽川中と花川中合わせると9人以上いますが、花中が少ないんですよ。だから樽川中を拠点校にしやすいんですけど…

村谷委員) 土地によって変わってきますよね。そうであれば樽川中を拠点校にすることも、花川南中に変わることもあり得るということですね?

小森会長) 大体1回決めたら変わらないです。現状だと、樽川中にするしかないと思います。

村谷委員) そうなんですね。そこは現状と教える先生がしっかりいるのであれば、1つ学校を決めてしっかりやっていけばいいのではないかと思います僕は。

小森会長) 少年野球をやってる人数とかも減ってますよね?

村谷委員) 減ってますね。中学生になるとシニア(硬式)に行く子たちが多くなっているので、かなり部活の方は減ってると思います。それを呼び戻すのはなかなか難しいですが、やはり部活をやりたい子はまだまだいると思うので、拠点校を決めてあげることで花川中の校区だけど樽川中に通えるという形もまた1つのかなと思います。そこでまた友人関係とか色々なことができるようと考えていただければと思います。

小森会長) はい。やはり樽川中が拠点校になって、花川中の生徒が来てくれて、花川南中の子や花川北中の子も何人かいたら樽川中にきてもらってという形で野球の拠点校方式は可能と私は考えています。ただ、厚田や浜益だと現実的に難しいかもしれないんですけど。そういう形が良いのかなと思います。向田さん、なにかご意見ありますか?

向田委員) イメージがあまりついていないんですが、例えば現状2つの中学校にある部活動のどちらか1つを拠点校にするというイメージかなと思うのですが、中学校なので毎年新しい中学生が入ってくる中で、石狩中であったり花川北中でも野球をやりたいという子が出てくると思うんです。その場合、拠点校方式にするのは週末だけなのか平日もなのかというところが気になります。例えば、石狩中の子が拠点校になった樽川中に練習しに行きますと言ってもなかなか難しいと思うので、まず何を決めればいいのかがわからないです。親の送迎が一番可能性高いと思いますけど、やっぱり拠点校までの交通手段問題が出てきてしまうのかなと思います。

小森会長) その通りだと思います。樽川中でやるとしても、樽川中に来れるような生徒だけしか希望できないということにきっとなってしまうと思います。例えば石狩中で野球をやりたい子がいたとしても樽川中に通うことになるならシニアに行くとか、部活動理由での学校変更しか野球を本当にやりたかったら方法がないとも予想されます。

向田委員) 石狩中から樽川中に学校変更した場合、交通費が毎日かかることになってしまふので、やっぱりすごい親の負担になりますよね。

佐々木委員) 中央バスの路線もなくなるので、その場合もどうなるのか考えなければいけないですね。

小森会長) そういう問題もありますよね。その通りだと思います。

矢野委員) 抱点校方式をするにあたって、現在ある部活動理由での指定外就学の認定要件をそれに合わせて緩く?広く?していくということですか?

事務局 宮本) 抱点校方式を導入するのであれば、部活動理由で学校を変更するという許可は今後せず、通常の指定校に通ってください。そして、部活動は抱点校の学校に行ってくださいというような形になるかなと思います。

矢野委員) 例えば一番上のバスケ部で指定校が花川北中だけど就学が花川中という例があると思うんですけど、指定校の花川北中にバスケ部がある場合も指定外の学校に通えるということですか?

事務局 宮本) これはですね、タイミングと言ったら変なんですけど、もともと花川北中で来年度は人数が揃わないのでバスケ部はありませんと部活動説明会の時に話をしてたはずなんです。だから、この生徒たちはバスケがやりたくて花川中に就学することになったんですけど、花川北中の入部状況を見てみると人が揃っていたので部活動として成立しましたというケースなんです。その場合、花川北中に戻るかという話になると制服とかも買い直さなければいけないということがあるので、結局ここは継続していくことになりました。「指定校にも部活動あるけどあの学校でやりたいから指定外就学したい」というのは基本的にありません。

小林委員) 難しいね。親にしてみればすごい考えなければいけないですよね。剣道でも今年有力な6年生がみんな石狩中の学区なんですよ。部活動のためにみんな花川中に動くかといったら多分動かないですね。自宅からの通学のことを考えるとおそらく全員は動けないです。やっぱり石狩中に行く子もいるんですよ。そうなると部活のない学校で一体どうするのかというね。個人戦には出れるかもしれないけど団体戦には出れない、寂しいよねという話になって、「どうしたらいいんですかね、先生。」と話をされるんですね。先ほどもお話ありましたけども、バスがなくなりますよね。これがすごいネックで抱点校方式もなかなか難しいところがあるのかなと思います。

小森会長) おっしゃる通り。ですのでなかなか進みません。でも、そんなことも言ってられないで石狩も 1 つか 2 つはやっていこうというのが事務局からの提案です。他のところでやっていないことでもやっていこうとなると、現状では野球くらいしか運動系で始めるものはないかなあと思います。本当は剣道とかもやりたいところですが、初めから拠点校方式とするには少しハードルが高いと思います。

例えば文科系でやるとしたら、樽川中の太鼓部が北海道に 2 校ぐらいしかないうちの 1 校で、今年も様々な場所に呼んでいただいて活動してるので、それを見て少し遠いけど拠点校になっている樽川中に入りたいという子が出てきてくれたりすれば太鼓部も可能かなと思います。吹奏楽とかどう思いますか？

清水委員) そうですね。太鼓部や文化部といった 1 校にしか部活動がない学校にも指定外就学というのが可能なのでしょうか？

事務局 宮本) 通常、太鼓をやりたいから樽川中に行きたいという話になるとそれは許可します。

矢野委員) 指定外就学を許可した場合に自宅から学校まで距離が遠かったらその人だけ自転車通学が OK なることもあるんですか？

事務局 宮本) 今学校の方で通学方法も見直しをしているので、自転車通学もそうですしそういった許可的な話とかも学校毎にはなるんですけど、ある程度は統一をされているはずなんです。そういう動きは確かにあります。

小森会長) 清水さん続きをどうぞ。ありますか？

清水委員) 文科系の方は大きな問題はなさそうだなとお聞きしてて思いましたので、特に意見はございません。

小森会長) ないですか。吹奏楽はどうしても合体したいとかないですか？

清水委員) もし生徒さんたちがもっと大きな単位で、大編成でやりたいということになれば、学校だけでなく例えば今話題となっている文化ホールのようなものができた時にそこに集まって、共通の指導者が指導をして、技術を学んでそれぞれに持ち帰るでしたり、平日も複数の学校で集まって演奏するという展開の仕方もありかなと自分の中でイメージ

はしていました。ですから、もし文化ホールができた時には面白いモデルができそうかなと思います。

小森会長) いいと思います。今市内では何とか顧問も揃っていますし、吹奏楽もそのうち減ってきたりしてしまうかもしれない、そういう発想を持っていただいた方が良いかなと思います。どうですか？上田さん、ここまで聞いてて。

上田委員) 1つ気になったのは、指定外就学で厚田の花川南中に来ているのは厚田だけど虹ヶ原くらいの距離なんですかね？

事務局 宮本) その辺ですね。

上田委員) どうやって通ってるんですか？花川南中まで

事務局 宮本) 基本的に指定外就学のお子さんたちというのは、保護者が安全な状況で通わせれるというのが条件の1つになるんですよ。それで行くとほぼ大半なんですけど、保護者が送迎している状態になっています。なので、厚田学園と花川南中という話になると朝保護者が仕事に行く時に乗せていく、仕事が終わった時間に迎えに行って乗せて帰るというのがメインになっていると思います。

上田委員) それが1つの条件なんだね。

小森会長) そうですそうです。どこの学校もそうですけどそれぐらいまでしてやりたい、やらせたいということではないと認めてないです。

上田委員) 理解しました。

中西副会長) どの立場で喋るかわからないんですけど、この課題を全部一気に解決するのははっきり言って無理な話で、じゃあどこから手をつけようという話だと思うんですね。それで、今言っているのは団体スポーツで人数がいなくて成立しない種目をどうするかで、今野球の話が出てますけれども、野球では樽川中は今試合に出れる人数がいて成立している中で、部活のない花川南中、花川北中にも1人や2人は野球をやりたい子がいるかもしれない。そうなると、そういう思いのある子たちを救ってあげたいという考え方があるのかなと思うので、全体的に人数が縮小していく中でも団体スポーツを残してあげられる1つの方法として拠点校方式という道が考えられるのかなと思います。

結局交通手段の話は非常に問題であるんですが、現実的に可能なご家庭しかできないという中で、実際今の厚田のバレーの子も含めて可能性を作つてあげられているという部分が拠点校方式にはあるので、全員を捨うことは難しいけれども捨ててあげられる子どもがいるということは1つ大事な事かなと思っています。

ソフトボールは今6人いて、花川中にしか部活がない形なので6人だと試合に出れないんですけど、試合に出るために逆にクラブチームを作っています。クラブチームの中には顧問は置いていないんですが、花川南中にも樽川中にも花川北中にも生徒がいます。過去には合同で出てましたが、厚田より遠い浜益にも一人いました。浜益からはやっぱり親御さんが平日毎日まではいけませんでしたけど、週末含めて送り迎えをしていただいて、顧問の先生にも頑張っていただいてやれたというところがあるので、ソフトボール部については、逆に日常の練習は拠点校方式というような形で今もう既に練習しています。花川南中の生徒は花川中にバスで通つてくるような子もいます。なので、チームとか拠点校として他の学校からも入れますよという環境を作つてあげることで、1人でも2人でも本来その学校ではできない、チームがチームとして活動できるような形を作つてあげれるのかなと思うので、石狩市として1つそういったところから踏み出していくことがいいのかなと考えています。

文科系については、吹奏楽部は今非常に人数がいて活動がしっかりできているというところはあるんですが、国の方向性としては今後6年の間に概ね部活動がなくなる前提の進め方になっているので、部活動としてなくなった時にどうしていくかというのが1つこの先考えていかなければいけないかなと思います。

太鼓については、今樽川中だけで現実的に指導者も外部の方がたくさんいて、課外活動というかお祭り等のイベントで叩いていたりということもしているということを考えれば、将来的な外部の受け皿への移行というのもある程度見据えながら動けるのかなというイメージで今ちょっと話を聞いていたところです。自分からは以上です。

小森会長) ありがとうございます。例えば野球でいくと、市内小の6年生で悩んでる子が何人かいると聞いたので、拠点校になるとその子たちがシニアに行かないでうちに来れる可能性が拡がります。太鼓だとしたら、今年病院の施設等でも招待していただいて花川南中校区あたりでも演奏したのを見て、来てくれたらいなと思います。全部の子どもを救うことはできませんけれども、そう考えていくしかないかなあと思います。

事務局 高石) 皆さんご意見いただきまして本当にありがとうございます。この場で方向性を決めきれるものではないですし、地域展開に関しましては先ほど中西副会長も仰ったように、長い目で見ながらR13以降基本部活がないというイメージを持った時への対応として、おそらくR13前の数年間にかけて議論が集中していくところかなと思っています。現状としては、拠点校方式と現状の部活を残したいという意見も含みましてまずは実証に向

けて走り出す。一方で、部活がなくなった時の地域展開に向けては少しずつ研究を進め、動けるようにしていくというのが今の段階かなと思います。学校の部活動継続については、諸事情もあると思いますのでこの場で決められる話ではないと思っております。

中西副会長) あとはどうしても学校現場の先生との兼ね合いというのも出てきて、先生も4月に変わってしまうのでちょっと難しいところもあるんですが、拠点校ということで先生の配置もうまくやれる可能性が広がるかなと考えるところはあります。

剣道の方も先ほど地域クラブのお話もありましたが、動きとしては非常に可能性がある話かなと思って聞いていました。あとは中体連など大会出場のルールの問題というのが出でくると思うので、中体連も今後なくなる方向にもなっているので、やり方も変わってくるかなというところもあるので、クラブからの動きは非常に大事に進めていけたらいいのではないかなと思います。

小森会長) 昔はどの学校にも全ての部活があって、先生方は全員部活を担当しなければダメという感じでしたけれども、平日はお金をもらっているわけでないし今は少し考え方が変わってきていますよね。石狩の先生方は調査にもあったように顧問数が割と揃っていますが、拠点校方式にすることでもっと楽になるかもしれません。

他になにがありますか？

佐々木委員) 拠点校の変更というのは出てくるんですかね？

花川北中で野球が今は10人で、来年は5人、再来年は3人となって、花川南中は逆のパターンがあるとするじゃないですか。その時拠点校は花川北中から花川南中に変更したりというような。

小森会長) 今のところは同じ学校の方が顧問の関係もあるのでいいかなと思います。例えば、拠点校に顧問がいればいいので樽川中に野球の先生を集めたりとか、そしたら他の学校は別に野球の顧問がいなくてもいいので。

佐々木委員) じゃあもうそこは生徒（部員）の数が一番多いとかじゃなくても拠点校になるということですか？

小森会長) そうですね。生徒（部員）の数が基本ですけどね。生徒がいないのに拠点校にするわけにいかないので。

中西副会長) 正直これからの動きの中では可能性がゼロではないかなと思いますけど、まだ入り口に踏み出してもいいところもあるので何とも言えないですね。

村谷委員) 当然多かったり少なかったりしますよね。中学校に上がる子の数が変わってくると思うし、全体的に少なくなっていくんでしょうけど。今先生が仰ったように、樽川中の地域がまだ野球をやってる子が多いからまだまだいけるということだと思うのですが、いずれはまた話し合わなければいけないと思います。

中西副会長) 全体の子供の数を考えた時には、大きい学校が拠点校になっている方が長い目で見ると、安心感はあるかなという気がします。

小森会長) 30年間樽川中の生徒数は大体500弱くらいで、今の小5が多く2年後にはピークになります。今どの学校も生徒数は減っています。樽川地区にどんどん住宅が建っているということです。部活動の加入率は65%ぐらいで、他のスポーツに行って子も多いです。石狩市は何かはやってる子たちが多いなあとは思います。

村谷委員) 樽川中を拠点にするって親御さんに投げかけた時に、自分で送迎が可能であればそれはそれで可能になるでしょうし、どうしてもできない子は地域の中でどうにかしなければいけないという場面も出てくると思います。どちらにせよ地域でどう支えるかという課題が出てくるので、その時はしっかり考えなければいけない時だと思います。

中西副会長) お金の負担をかけないことを考えれば自転車での移動はルールを緩和してもいいかなという気はしますけど、距離によりますよね。厚田から自転車で来いとは言えないでの。

小森会長) どうですか、他質問ありますか？

(なし)

そしたら宮本さんなんかどうでしょうか。

事務局 宮本) まずはこういった形で可能かどうかというのを団体協議を考えた上で、市内学校に道と教育委員会の方で調整して検討し、実証できるのであれば実証していくたいと考えています。その上で、そこから見て例えば剣道のような団体と個人どちらも存在する競技でしたり、個人競技は少なくとも1人いたらできる競技ですので、優先順位は団体競技をやって、団体と個人どちらもある競技をやって、個人競技という形でやっていくと方向性や移動に関する問題点等も少しずつ見えてくるかなと思います。そういうところを国が示したスケジュールの中でやっていければいいのかなと思っています。

小森会長) 皆さん仰る通り不安なところだらけです。例えば冬はどうするか、移動や顧問、お金もどうするかとか。今後不可能と言われたり思うこともあるかもしれません、方向的にはこのような形で進めていくということでおろしいでしょうか。

(委員 頷く)

本当にありがとうございます。本日は長時間様々なご意見をいただき、ありがとうございます。

事務局 宮本) 次回はこのお話でいけるということであれば、私たちの方で調整させていただいて、その結果を報告する形を取らせていただければと思っております。

小森会長) 以上を持ちまして、協議会を閉会したいと思います。お疲れ様でした。